

受賞企画の商品化への取組み(マスコミュニケーション学科)

現代文化学部マスコミュニケーション学科観光振興ゼミでは、全国版観光コンテストである国土交通省主催「水の里の旅コンテスト」に、学びの成果を問うべくエントリーしています。2018年、2020年、2022年と3回応募し、3回ともに学生部門で最優秀賞を受賞し、同時に特別賞や観光庁観光資源課長賞もダブル受賞しました。毎回審査員や国交省関係者の方々より、対象地域の活性化のためにも商品化して欲しいと要望を受けていました。2022年度に受賞したゼミ生の中から4名が2023年度、地元の旅行会社である(株)たびまちゲート広島と連携し商品化に取組みました。

受賞企画は、尾原ダム(島根県雲南市)の水源地域である奥出雲町を舞台に、たたら製鉄に由来する豊かで多様な自然環境と景観に恵まれ、産業、歴史、文化に彩られた当地域で、先人の知恵と工夫に思いをはせることができる、中国地方の大学に在籍する留学生と日本人大学生を対象とした2泊3日のバス旅です。ところが、商品化への作業の中で、対象を高齢者層へ、2泊3日の行程を日帰りへと大きく変更することになりました。受賞企画のコンセプトを出来るだけ残し活かすためにはどのような行程とコンテンツを設定し、お客様の満足度を最大化させるか、この作業はとても難航しました。しかし、特に観光業への就職を検討していた学生達にとってはこれほどの貴重な経験は無く、実践的スキルの多くを学ぶ機会となりました。

商品化企画は2024年5月10日(金)限定、1人12,500円の商品です。タイトルは《奥出雲 たたら製鉄に由来する「日本農業遺産」に触れる日帰りの旅～棚田景観と尾原ダム、奥出雲そば堪能～》です。



2024年2月19日中国新聞朝刊に掲載



完成したパンフレット

広島ユース・ホステル跡地での冒険遊び場の実施(幼児教育科)

短期大学部幼児教育科 長野ゼミでは広島市経済観光局観光政策部と連携し、東区牛田新町の広島ユース・ホステル跡地の活用策検討の一環として「冒険遊び場の実施」を行なっています。

「冒険遊び場」とは、子どもたちがのびのびと思い切り遊べるように、できる限り禁止事項をなくし「自分の責任で、自由に遊ぶ」ことを大切にして、遊び場にある道具や廃材、自然の素材などを使って、自分のしたいことをする遊び場のことです。最近では、遊ぶ時間がなかったり、友達が忙しくて一緒に遊べなかったり、遊ぶ場所がなかったりと、なかなか思うように遊ぶことができない状況にあります。そして公園なども禁止事項があって、子どもたちが自由に遊べる機会は本当に限られたものになっています。冒険遊び場では、そのような制限がなく遊びこむことができます。

今回(11月に実施)の冒険遊び場には、牛田新町小学校の約50組の親子に來場していただき、長野ゼミの学生もその運営に携わらせていただきました。また運営には長野ゼミだけではなく、広島市、NPO、地域のボランティアなど多くの方が携わりました。長野ゼミの学生は、プレイヤーとなって各遊び(落ち葉遊び、焼きビー玉づくり、べっこう飴づくり、木材廃材・段ボール工作、土いじり、たき火、マシュマロ焼き)に分かれて、子どもたちと夢中に遊びこみました。学生たちも子どもの頃にしたいことがないような遊びを経験することができ、さらに普段関わりのない小学生と触れ合うことができ、学びの多い機会となりました。今後も子どもたちが健やかに育つことができるような活動を継続していきたいと思ひます。

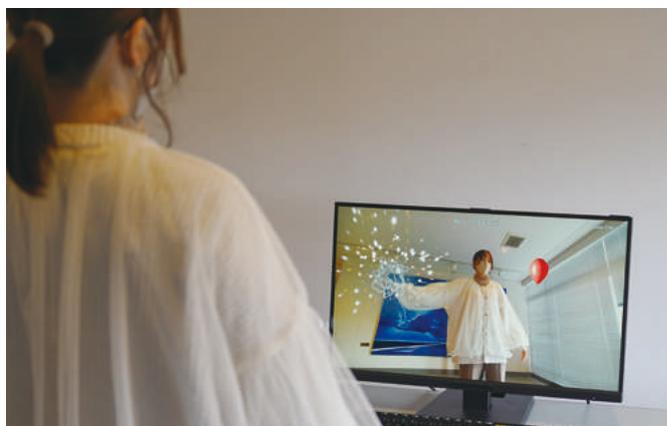


企業との共同開発研究を教育に活かす(社会臨床心理学科)

現代文化学部社会臨床心理学科の吉田ゼミ(実験心理学研究室)では、障害児を含む子どもから認知症患者を含むお年寄りまで、幅広い方たちを対象に認知機能(脳機能)の評価や訓練/リハビリのための課題を開発しています。私たちがつくる課題の多くは「ゲーム」です。楽しければやる気もでるし、長続きするので、訓練やリハビリ効果も高いからです。

下の写真は、画面に出てくる風船にさわって割って遊ぶ現在開発中のゲームですが、これは、発達障害をもつ子どもたちの中に身体イメージがあいまいで感覚運動協応に困難をもつ子どもがいることから、それを評価し、訓練するためのプログラムになっています。今年度は、広島市内の情報系企業、(株)ユニコーンと共同で、発達障害児の成長/発達を支援するプログラムを共同開発するプロジェクトを立ち上げ、広島県の健康・医療関連産業創出支援事業の補助を受けて活動しています。

ユニコーン社とは、2010年に障害者・難病患者支援ネットワーク「miyasuku」を立ち上げて以来、さまざまなところで協働しています。昨年12月には、全国の重症難病患者・障害児と、子ども、お年寄りが一緒に参加するボッチャ大会を本学のアリーナで開催しました。学外の企業、病院、福祉施設、難病患者や障害児者とかかわる中で、ゼミ生たちは学内の授業では得られない経験を積んでいます。下の二次元バーコードでその様子をご覧くださいので、ぜひご覧になってください。



<https://www.youtube.com/watch?v=3-4F-it00wA&t=97s>
(外部のYouTubeチャンネルにアクセスします)



幼稚園児と一緒に2号館の壁に絵を描こう！

2024年1月18日(木)に、「幼稚園児と一緒に2号館の壁に絵を描こう！」というイベントを、短期大学部美術科・幼児教育科、比治山大学短期大学部附属幼稚園が連携して行いました。

普段なら壁に落書きすればしかられますが、解体予定の建築ならそれも許されます。2号館最後の思い出のイベントとして、心置きなく落書きできる体験を、学生だけではなく幼稚園児を招いてやったら、きっと楽しいだろうと考え、幼稚園長にこのアイデアを持ちかけたところ、是非やりましたとなりました。

当日は幼稚園の年長・年中合わせて98名が参加。園児たちは最初からパワー全開で、クレヨンを手にするや否や、壁や床に向かってどんどん描いていきます。園児の、全くとまどうことなく思うがままに描いていく様子には本当に驚かされます。園児には「こんな絵を描いたら笑われるのではないか？」という恐れが全くなく、純粋に描くことを楽しんでいるのです。こんな園児の、描くことの根源的な動機や喜びを、あらためて見せつけられただけでも、美術科の学生にとっては大きな収穫でした。学生にも、こんな時があったのですから。一方、幼児教育科の学生はさすがです。園児たちと日頃から触れ合っており、園児の描きたい衝動を妨げることなく、安全に配慮してくれていました。

しかし美術科学生も園児に負けていません。考えて描くこと、は躊躇を生みますが、その葛藤を乗り越えて、学生それぞれが自分らしい絵を描いていました。

日頃は接点のない他学科の学生や幼稚園児と交流することで、貴重な体験をすることができたのではないのでしょうか。



管理栄養学科の多彩な地域連携活動

健康栄養学部管理栄養学科は、令和5年度も企業や自治体等と連携し様々な活動を実施しました。活動の一部をご紹介します。

どうする、災害時の食事！

山崎ゼミでは「災害時における食からの支援」をテーマに、防災教育（ローリングストックやパック・クッキング）の出前講座を行っています。令和5年度は広島市や廿日市市、世羅町などの7団体から依頼があり、延べ240人の方にご参加いただきました。「停電・断水が長引いたら、季節により需要が変わってくるため、その都度確認し、準備していきたい。」などの感想がありました。繰り返し発生する自然災害に備えて、地域の皆様のニーズに応えられるよう普及啓発活動を行っていききたいと思います。



東区民の健康づくりのために～動画・レシピを作成～

公衆栄養学の授業では、広島市東保健センターのご支援を得て、地域の方の健康づくりを支援する事業に取り組みました。2022年度は乳幼児健診の待合会場で見えていただく動画を、2023年度は地場野菜を販売する「木曜であい市」で配布する野菜レシピを作成しました。これらを作成する目的は何か、その目的のために「伝わるように作る」ためにはどのようにすべきかなどを考え、また、実際に東区で使用していただく責任を感じながら作成し、多くの学びを得ることができました。



音戸の牡蠣を使用した創作料理と地域の方々との交流

2024年2月25日（日）に開催された「イロ・サクレ 音戸～夜限りの美食体験～」(音戸町魅力化推進協議会主催)に寺岡ゼミの学生が参加しました。

呉市音戸町の牡蠣とくらはし野菜の王国の野菜をふんだんに使用した「牡蠣と野菜のパイ包み」「牡蠣の南蛮漬け」の創作料理を調理・販売し、大変好評のうちに完売しました。当日は、早瀬女性会にご協力いただき旧早瀬保育所の調理場をお借りして調理しました。これからも、地域の方と一緒に食から地域を発信する活動や研究を行っていきます。



公開講座「うしたカレッジ 英会話講座(初級)」

令和5年11月に牛田公民館との連携講座「うしたカレッジ 英会話講座(初級)」を実施しました。「広島を訪れる外国人観光客とのコミュニケーション」をテーマに、道案内、観光地やグルメ、おみやげの紹介など、それぞれのシーンで役立つ表現が実践的に学べる内容を現代文化学部言語文化学科国際コミュニケーションコースの3名の講師が担当して行いました。また、講座の一部では学生がアシスタントとして参加し、英語表現のクイズを出題したり、一緒に英会話を楽しみました。受講者の方へのアンケートでは、全員が今回の学びを役立てたいとの回答があり、「英語でのコミュニケーションの楽しさが学べた」「講師がそれぞれ個性的で楽しかった」「ネイティブの講師の講義を受ける貴重な機会となった」などの感想もいただきました。なお、「英会話講座(初級)」は令和6年度も内容を一部見直して実施を予定しています。



広島市安芸区矢野公民館所蔵考古資料の整理と調査

現代文化学部言語文化学科（日本語文化コース）安間研究室（考古学）では、広島市安芸区矢野公民館と連携し、館が所蔵している考古資料の整理・調査を行っています。館には、おもに広島市に合併する以前に矢野地域から出土した考古資料が保管されていますが、それらの中にはこれまで知られていなかった資料も多くあります。これらは地域の歴史文化を考える上で重要な資料ですので、すべてを多くの方に知ってもらう必要があると考えました。また一部の資料は公民館ロビーに置かれていますが、地域の歴史が学べる展示にして欲しいという依頼も館から受けました。これは学芸員の仕事を実際に体験できる貴重な機会だと思い、資格取得を目指している学生に参加を呼びかけ、一緒に作業を始めました。

まず、資料の数量や出土場所などを把握するためにリスト作りを行いました。学生と館に赴き、職員の方にご協力いただきながら、データの記入と記録写真の撮影を資料1点ずつ進めていきました。今の段階で200点以上の資料が確認されており、広島市内の公民館施設でおそらく最大の所蔵資料数になるだろうということが分かりました。それから展示に関わる作業として、資料のキャプション（紹介板）の更新を行いました。いずれも学芸員が行う基本的な作業で、学生にとっては学芸員という職業をイメージできる良い機会になったのではないかと思います。

今後も引き続き矢野地域の遺跡や資料を紹介するワークシートの作成や、資料の時代や性格を活かして地域の歴史を深く学べる展示構成を企画していく予定です。



ひろしまアニメーションシーズンとの連携(美術科)

短期大学部美術科は、2013年度からメディア芸術の振興と人材育成に関する研究を広島市より受託して行っています。さらに2022年度からは、ひろしま国際平和文化祭が主催する米国アカデミー賞公認の国際アニメーション映画祭「ひろしまアニメーションシーズン」とも連携し、メディア芸術分野の次代を担う人材を育成してきました。

2023年度は、世界的に著名なアーティストであるレジナー・ベンソア氏を招聘。学生たちは、レジナー氏の上映会と「エンブレイビング技法」という特殊な技法を習うワークショップに参加し、これまでにない貴重な体験をしました。レクチャー終了後、学生たちはリーダーとなり、地元の高校生グループと同技法で共同制作をするというミッションを与えられ、2日間で作品を完成させました。作品は学内で展示されたほか、2024年7月の広島市のイベントなどで上映される予定です。

2024年度からはさらに連携を強め、ひろしまアニメーションシーズンと大学全体が協働します。大学の取組内容として、ひろしまアニメーションシーズンが招聘するアーティスト・イン・レジデンスの作家たちを地域の方々へ紹介する上映会を開催したり、上映作品の字幕制作、映画祭ゲストを対象としたバスツアーの開催を予定しています。学生がそれぞれの得意分野を活かして国際文化イベントに積極的に参加することで、国際社会で輝ける人材に育ってほしいと願っています。



連携企業等を募集しています

比治山大学・比治山大学短期大学部 生涯学習・地域連携センターは、公開講座などの生涯学習の充実はもとより、地域連携に関する調査研究や情報の収集、地域社会との共同事業や教育研究の推進を図るとともに、広く産官学との交流や連携事業の実施に引き続き努めてまいります。本学との連携を検討される企業や自治体、地域団体等がありましたら、当センターにぜひご連絡をお願いします。



比治山大学 比治山大学短期大学部

生涯学習・地域連携センター

〒732-8509 広島市東区牛田新町4丁目1-1

TEL: 082-229-0121 FAX: 082-229-5100

<https://www.hijiyama-u.ac.jp>

E-mail: shougai@hijiyama-u.ac.jp

[比治山大学ホームページ](#) > [大学案内](#) > [地域連携](#) > [生涯学習・地域連携センター](#) に掲載しております。こちらをご活用ください。

【教員研究ガイド】本学教員の研究内容を公開しております。 【公開講座】2024年度の公開講座案内を掲載しています。



生涯学習・地域連携
センターページ